



滑秣旨即興新

遠
1.8/0
1/



13
18/10



滑稽即興新序



昨日乃即席料理を今日
即席新此節江戸の
物専浪連の流りのか
的を心より押が出せら



志^しま^まし^し井^い乃^の舌^し卷^まき^く
腸^{ちやう}が^が耕^{かや}寸^{すん}道^{だう}と^と可^かき^きぬ^ぬく^くわ
と^とぬ^ぬう^うて^て此^{こゝ}ス^ス来^きの^の長^{なが}い^いを^を燈^{あかり}
心^{こゝろ}康^{やす}申^{まを}乃^の晚^{おそ}み^みく^く空^{そら}を^をぬ^ぬく^く
鼻^{はな}毛^げも^もの^の何^{なに}れ^れぬ^ぬ嘯^{せう}の^のら^らぶ^ぶぬ^ぬ
何^{なに}某^{ごと}書^か翰^{あは}一^{いつ}一^{いつ}京^{きやう}攝^{せつ}の^の珍^{めづ}

話^わら^らせ^せま^ます^す一^{いつ}耳^{みみ}と^とり^り
の^のみ^みく^くの^の鼻^{はな}井^い紙^し乃^のま^まを^をぬ^ぬ
は^はけ^け送^{くわ}る^る事^{こと}を^をり^り

寛^{かん}政^{せい}六^{ろく}甲^が寅^{いん}年^{ねん}冬^{ふゆ}煙^{たばこ}草^{くわい}包^{いれ}鋪^せ
み^みお^おわ^わす^す京^{きやう}橋^{はし}の^の息^{いき}子^こと^と
書^かく^く六^{ろく}日^{にち}限^{げん}の^の便^{べん}に^に附^つす

司次

真親

家元

二王

足事と志

道成寺

三ツ子

丹波おとこ

滑稽昇鼻與嘯卷之巻

真顔

はそちいあう人下流さへて傘をうやあねと
ぞくせー系傳而鼻は金銀すまては例こ

奉々透のゆらおまきく 春の日の法きく 揚尼

不出往來をえぬぬ 穴をいーあさ人通り百方石も

けんべさもとと城本屋乃津りりふいふと通り

ちん六の地是ハ鼻と及らうづとのんでえぬぬ肉

東南よりをえとるりとあやう一志きりあり出

そくあふよあ 袴羽織で男つぎと所人がきく

かぶあく コリヤ三助さあでもけぬハ来そくあ

傘をいして下詰さてのやいさきぬ一トちいさいんで死て
こいといひつやとせつあまを及ハ大ふ後筋をのりあひ
あまのりけかうしさにそまゝの及へるのふとあまを
以笑ひやまは近おろそそろのあふ何ぞあ笑ひ
おそぢを及イヤげああまの近座一とろと抱足
て壺中の佳末と足ふとああていしと進ハたろ
をとりて供つとこ男の佳よひつげらハとあ
あふあふりそあろ下詰をいして傘さそまやいさぬ
を中いんで死てこいといひつや何と抱く一いして

ないうを及へい及下詰をいして傘さそまやあうない
とふかういしてあいうを及へい及下詰一やげせぬり
を及イヤ陸分げ一ととりままら及げせとあ
一のふと次て知く

家元

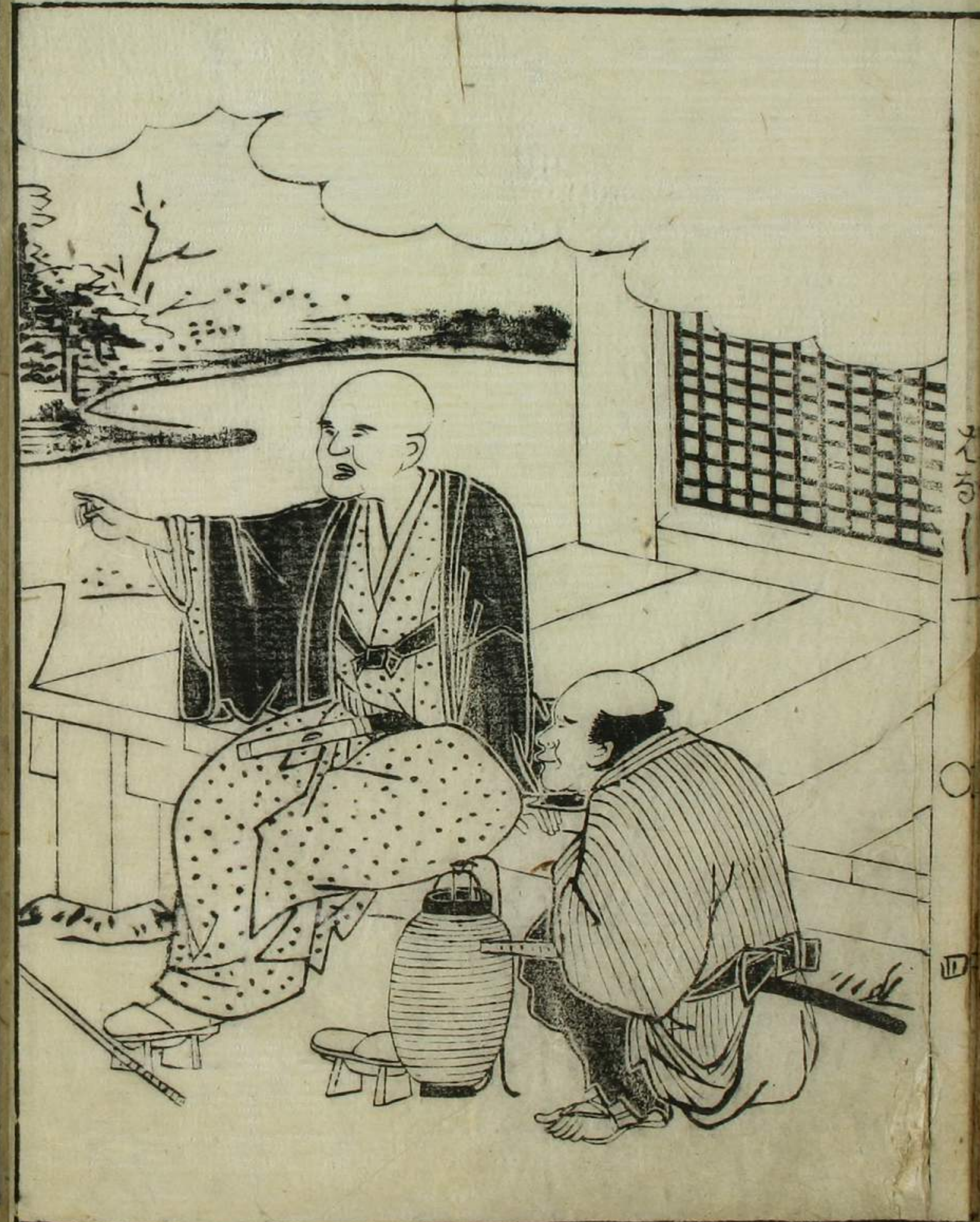
ある夜都敷の内此何が一室よあつて一人茶と
てん一飛は世しがあろとろ結の介窓一と
ちりく、あろりたろいつのろふやと座一めんよ
あもせん香もせとあり候とろあろの志ろくそ

系色いんぐさのけまばいごさうはるんごころか
あまでと夜半の鐘のきつるもいとけな僕八助
とあこーとちんをともまやまつ吉田がよりんを
ころろざー社檀こーあけ境内を打んよ
さふもいぬくさ何と八助にさーろふ後つこ
てあいつといハ僕ハあひあがるおどの心ごなま
とらと病ハ是淋あくはよ負来りし事ゆ
何の是がさるーろいさあるあこはあこいとが
やうちああこありあ儲けける是方家えハ

眼をそぢめておんまは十むりの田力対尺乃
長合羽よ草のけこ下結を片とる傘とさー
ながろまどあつて是も境内のきんる風情い
ある雅人中うとゆーく何とゆえとあうあ
けろまは家え僕よむし今夜を通つて男を
何であふあハイ今ころまはあくらああ
茶師盗人てござりませよ

二王

去山寺の二王門ちいさあうせくあ和尚方くを



勅化してごあやうかやうきとの趣りらん
てさういふ所の底屋のやうな時さうかきば二玉の
目入る玉眼をかんとやうしてごいどうてあまの
よろろあといひ出されればおあハ不承知の
下のたぢのこまなる底屋の洞こそおハ一の止家あれバ
まんごう底屋されもせだ玉眼をあまのいどう
であつてくろくごまてよ二玉でさあがりくるゆ二玉
いへてさういふおありえるおさをぐハ底屋どの
智恵のいふくもててもあこくもててもとんと玉眼よ

かろくごまのあいと感心して居るうち二玉の鼻く
風が通つてホペニ

足事と志

大坂本町辺のうらに隠居でもあく志をこやてお
あやうぢぢれやああらじとて居るを後
らんをさうくよまむ隠者の所へおを呉服屋の息
子が来て南のけいこよいらのあるのを親仁がまて
まへにさうねお懐をほくぐさいてツリヤ親仁
このごまをもつともあるおとあいつのあの出を

そと花子と女あつしよもくつひに世に親出のてまね
やうよあるもあつしよもくつひに世に親出のてまね
聖にまけぢんけ花といふ句がよいまねこのやうに
うつくしいものをも肉につけてもつてはかひりや
あゝいものま上一おいはまあつしよの小づひとまはうも
なれ就所のろ管いふ若いとて是れと知れや
ませ私もまうこの系部まうまう時分よてし海の
儀叙まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
あんどんがうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

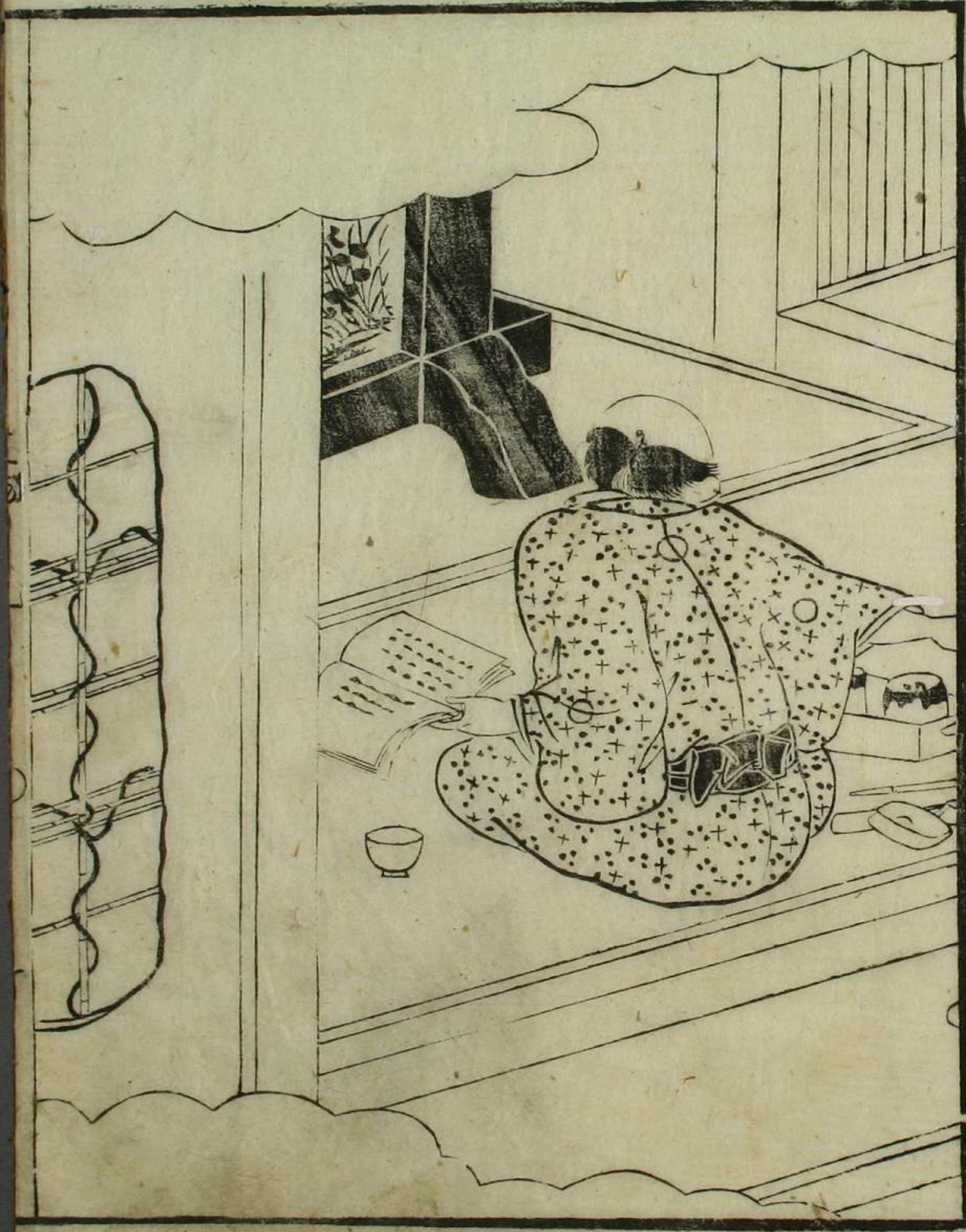
こゝろてまうまうまうまうまうまうまうまうまう
何れまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
ぬれまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
布べりいせ合羽のたごこ入。阿波たごこまうまうまう
仙臺のうさむら。茶ハ肥後茶まうまうまうまうまう
のを大和のまうまうまうまうまうまうまうまうまう
上のせんまい下聖の日光とくつし。茶油ハまうまうまう
赤穂平生何も用ハまうまうまうまうまうまうまうまう
伊豆まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

被^{とど}杖^{つゑ}仕^しりありてござりたまはれどもお急^{いそぎ}のりあがるふ
あいはまるきりかりよこしう^{こうしきり}と奥^{おく}ひ仕^しりませうと支^し
なもてさる^さ及^{およ}ぬちをりめたるがあらむを^をあ^あり^り俄^{かた}に
ろろろろのり^{ろろろろ}雷^{かみなり}大^{おほ}きあり出^いせ^せば百^{ひゃく}姓^{せい}咸^{かん}心^{しん}して
仙^{せん}助^{すけ}と氏^{うぢ}神^{かみ}の中^{ちゆう}よ夕^{ゆふ}立^たつなぐせうと小^こ傭^{じやう}りして
恨^{よろこ}べらうとむねをい^いはけ鐘^{かね}う^うそ^そやとて^てさうぶよ
手^てを^をう^うけ^けり^りめと^と足^{あし}く^くー^ーが鐘^{かね}が^があ^ある^るそ^そん^んよ又^{また}も
あり出^いせ^せ大^{おほ}か^かあり^りぐま^まく^くを^をい^いち^ちり^りし^しを^を
か^かき^きへ^へえ^え物^{もの}の^の百^{ひゃく}姓^{せい}と^とま^まく^く正^{せい}氣^きと^と笑^{わら}ひ^ひ礼^{らい}さ^さり^り記^き

やうくそ^そう^うを^を垂^たれ^れが^があ^あり^りの^の人^{ひと}来^きり^りて^て女^め抱^{かか}り^り
氣^きが^が流^{なが}り^りや^や鐘^{かね}の^の下^{した}よ仙^{せん}助^{すけ}が^があ^あり^りと^と鐘^{かね}を^を
あ^あげ^げ見^みま^ま中^{ちゆう}よ^よも^もく^く移^{うつ}り^りと^とて^て別^{べつ}糸^{いと}あ^あき^きて^てい^い
是^{こゝろ}は^はあ^あり^りと^と人^{ひと}く^くあ^あり^りと^とあ^あり^りと^とあ^あり^りと^とあ^あり^り
鐘^{かね}が^が救^{きう}れ^れて^てな^なつ^つて^てあ^あつ^つて

三ツ子

はづしさま女^め中^{ちゆう}よ三^{さん}ツ^つ子^こを^をう^うめ^めたる^たが^が二^に人^{にん}八^{はち}男^{なん}
ひとり^{ひとり}ハ^ハ女^め之^の夫^{むすこ}婦^{めかけ}大^{おほ}き^きは^は恨^{よろこ}ひ^ひさ^さを^をあ^あく^く三^{さん}ツ^つ子^こを^を産^う
と^と六^{むつ}出^{しゅつ}世^せの^の瑞^{みづ}お^おき^きお^おの^のぶ^ぶ三^{さん}ツ^つ子^こを^をう^うめ^めば^ば金^{かね}人^{にん}よ



作^お付^つり^りゆ^りゆ^りあ^り―^{さて}ね^くく^らゞ^てい^さふ^りと^よろ^らふ
お^り―^ま近^き西^のの^人其^の産^をあ^らる^らび^よ来^りい^まり^ハ
三^つ子^を舎^に今^も三^人男^そろ^あて^のの^り室^のハ
一^人ハ^女子^トヤ^小あ^つて^舎人^ハあ^らぬ^衆仁^大ぶ^らご^ご
ら^ぬめ^ろの^のぐ^さハ^豆腐^のの^用ハ^なり^まま^と

○ 丹波男

ある^ト儒^者放^蕩を^しけ^い―^うぬ^あき^くせん^後季^一向^は
洗^まる^祓は^け季^丹波^{より}き^こる^山出^のの^男ハ
け^ハ儀^ごろ^やと^まく^且那^ハ他^た地^ぢと^いひ^つけ

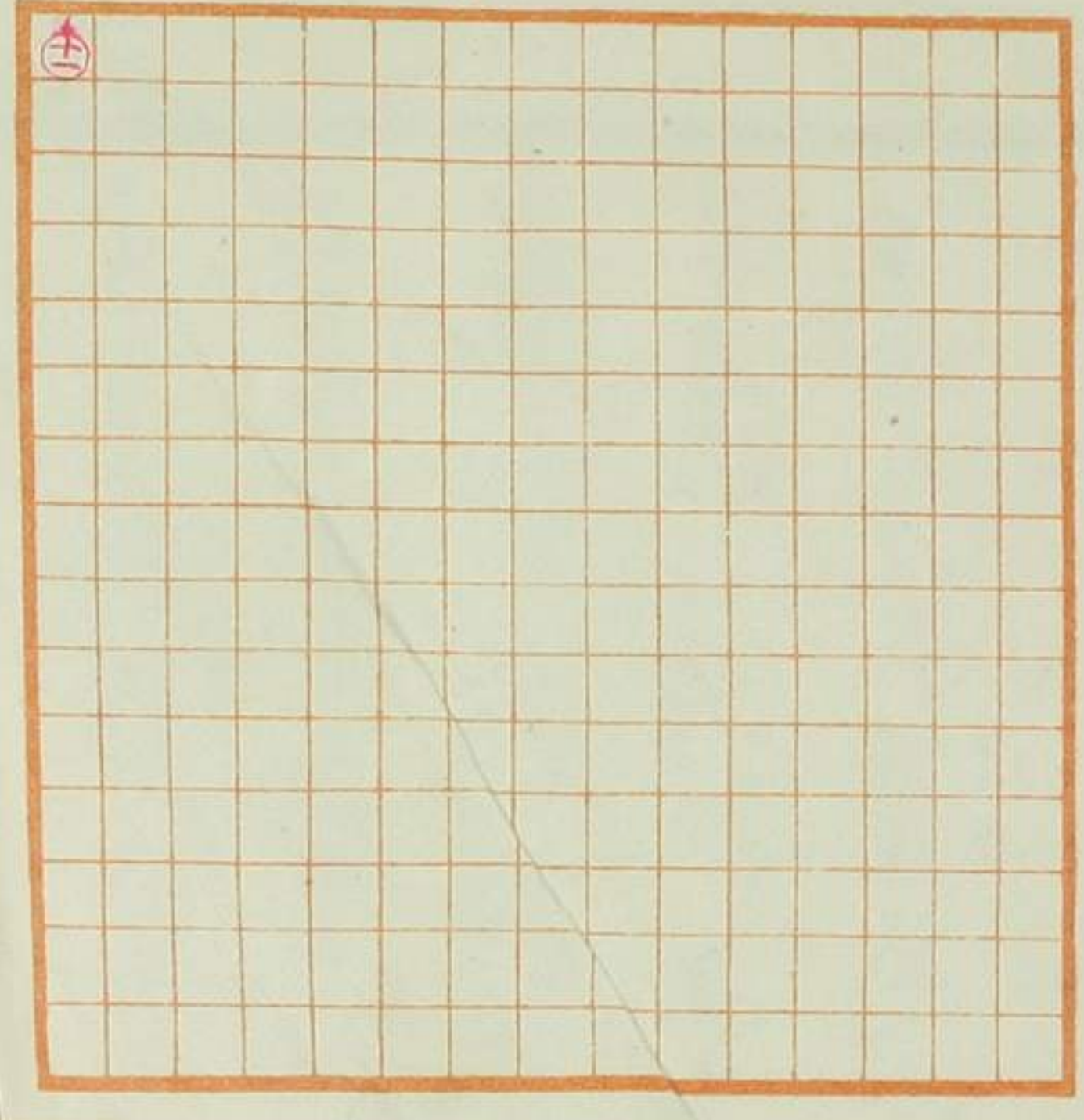
そ^がハ^二階^ハあ^うり^かく^垂居^ろう^が志^をか^くす^ると
あ^らそ^のの^儀儀^をき^こる^く―^男ど^あこ^ハイ^本屋^で
ご^ごり^ます^か事^多ご^ごり^ませ^う―^男且^那ハ^化け^ハ
木^ヤた^ぬあ^らほ^うこ^まん^トま^せう^とい^ぬ又^まを^とを
ぐ^らん^く―^男ど^あこ^ハイ^本屋^でと^いひ^ます^から
あ^らこ^ごり^ませ^う―^男た^んあ^らた^ぬあ^らほ^うこ^まん^トま^せう^と
あ^らこ^ごり^ませ^う―^ハ幸^にあ^らじ^こご^りま^せう^と
う^らま^んト^まな^かこ^のこ^りま^すと^いひ^ぬ又
す^どご^ごり^ませ^う―^男ど^あこ^ハイ^異服^屋で^ごご^りま^す

4

1

1

4 年 月



二階に於てぬる事

滑靴首昂真噺巻之一終

いぬ又すとどくましく男
ござりまするやどござりませ
どくして着やハイあるとござり
あるどくして着や又ハイあると
化けをなぞどくして
るでござりまするへ男化けの

いぬ又すとどくましく男
ござりまするやどござりませ
どくして着やハイあるとござり
あるどくして着や又ハイあると
化けをなぞどくして
るでござりまするへ男化けの



一 執事多しござりませし男且恥ハ他行たごやうごきやごやご
 愧かたじけなくるさるしませふといぬ又すとどくさくく男
 ござりさい有さうな屋でござりますかみどくこさりませ
 男且恥ハ他行志をばくして有やハイあるとござり
 ませし男且恥ハ他行志をばくして有や又ハイあるど
 こさりませし男且恥ハ他行志をばくして有
 色たごやう一他行と何のりどござりませしへ男他行ハ
 二階ふたよみ妹いてぬる事
 滑ころ靴せいの首くび昂あがり真まこと噺ばなし卷まき之一いち終おわり

滑靴首昂真噺

卷之一

一

